第41回 びわこ学園実践研究発表会報告

～「いのちと暮らしに寄り添う支援」～

令和4年12月10日(土)
法人事務局 人財育成部

第41回びわこ学園実践研究発表会は、近年その存在と実態が社会的にも認知されてきている医療的ケア児者への支援について取り上げました。昨年度同様にオンラインで開催し、北は青森から南は大分まで、法人職員とご家族も含み、243名の方に参加いただき、講演と実践報告の2部で行いました。

講演の部　「医療的ケア児の支援実践とネットワークの構築」というテーマで、国立成育医療研究センターの医療型短期入所施設「もみじの家」ハウスマネージャー内多勝康氏に講演いただきました。内多氏は、NHKのアナウンサー時代に医療的ケア児をテーマに番組取材、報道をされたことがきっかけで、「もみじの家」に携わられることになったとのこと。医療的ケア児をご家族の置かれている現状や、もみじの家利用時の子供たちのいきいきとした姿をとおして、短期入所がご家族を支援すると共に、子供たちの自立支援の一歩ともなっていることをご紹介いただきました。また短期入所事業が単独で機能しているのではなく、医療的ケア児支援センターと連携しチームで支える実践と、その仕組みの重要性をお話しいただきました。その後、口分田びわこ学園医療福祉センター草津施設長と南方法人地域担当からびわこ学園が実施している医療的ケア児者関連の支援事業について報告し、支援の課題と今後の事業展開についても意見交換をしました。

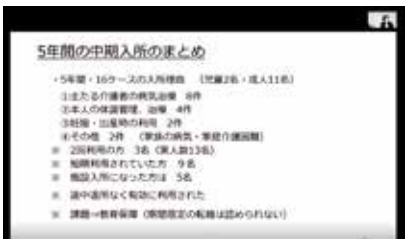
もみじの家をバックに
ご講演いただいた内多氏

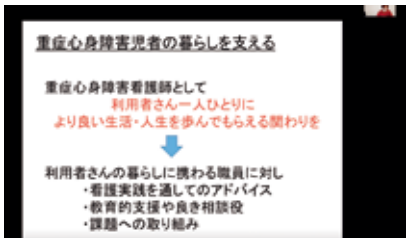
実践報告の部　**各事業所から４つの報告を行いました。**

報告１は、びわこ学園障害者支援センターの多機能型事業所「ちょこらんど」から「医療的ケア児と家族にとって切れ目のないサポートを目指して」というテーマで報告しました。「ちょこらんど」における支援は、母子分離型で訪問看護との兼務によりタイムリーに情報提供できるという特徴があり、多職種が協働して支援を行っているということで、看護師、保育士、理学療法士がそれぞれの視点で大切にしていることや今後の課題について報告しました。

報告2は、知的障害児者地域生活支援センター相談課の作業療法士から「リハビリ巡回相談から見た重度、高齢化に対する地域支援のアプローチ」というテーマで、地域においても大きな課題となっている加齢に伴う重症心身障害者や知的障害者の重度、重症化に対して、センターが実施しているリハビリ巡回相談において、作業療法士が入所での経験を生かし対応した事例をとおして、医療重度化する利用者の支援に関する地域の現状やリハビリ職に求められる役割についての報告を行いました。

報告３は、びわこ学園医療福祉センター草津から「センター草津の中期入所の現状と課題」というテーマで、地域で生活する利用者が主たる介護者であるご家族の病気や出産、あるいは介護などのライフイベントにより在宅での生活が一時的に難しくなった場合の対応として、2016年から行っている３か月までの中期の有期限の受け入れについて、その経過と今後の課題について報告しました。





報告４は、びわこ学園医療福祉センター野洲から「日本重症心身障害福祉協会認定・重症心身障害看護師の活動報告」というテーマで、協会認定の重症心身障害看護師が担う役割について、アンケート調査をもとに、研修や指導など施設内外での活動と今後の取り組みについて報告しました。

いずれの報告につきましても、オンラインによる質疑を行い、今後の実践につながる意見交換をさせていただくことができました。